

京都博愛会病院「防災(地震対策)訓練」

2025年12月4日、京都博愛会病院にて震度6強の地震発生を想定した「防災(地震対策)訓練」を実施しました。

(写真：各部署から災害対策本部へ被害状況を報告している様子)



『新年を迎えて』

社会福祉法人 京都博愛会 京都博愛会病院 院長 金盛彦

あけましておめでとうございます。皆様におかれましては健康やかな新春をお迎えになったこととお慶び申し上げます。昨年は大阪で関西万博の開催があり、また関西ゆかりの二人の先生がノーベル賞を受賞され、特に関西にとっては明るい喜ばしい出来事が続きました。

地震、台風、豪雨などの自然災害が各地に大きな被害をもたらしましたが、さらに昨夏は記録的な猛暑が続き熱中症などの健康被害、農作物への被害、経済活動への影響など社会生活に深刻な打撃を与えました。

全国的に厳しい医療情勢の下で病院の赤字経営が深刻化しており、当院でも昨年は病床稼働率の低迷、人材不足による看護配置基準の維持困難、精神科医療体制の再編問題など難題が山積し対策に苦慮した1年でした。

2025年には団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となりました。すでに超高齢社会に突入していますが、今後ますます少子高齢化が進み、人口減少と相まって、2040年には高齢者の割合がピークに達し、様々な社会問題が顕著となってきます。特に医療・介護・年金などの社会保障制度の維持が困難になると予想されています。医療・介護の需要は高まりますが、人口減少による労働力不足、財源不足で十分な対応ができず医療・介護サービスの提供が難しくなる可能性があります。まだ少し先のこととはいえ、かつてない超高齢・人口減少社会を迎えようとしています。2040年を見据えた新たな医療・介護提供体制の見直しが必要となってきます。

本年も病院にとっては厳しい状況下ですが、「博愛・協調・健康」の基本理念のもとに、より一層地域に根差した病院であるよう努力を重ねる所存です。皆様のご支援ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



基本理念

【博愛】博愛の精神に基づいて、患者さまや地域の人々にやさしく、親しまれ、信頼される病院を目指します。

【協調】患者さまを中心に協調の精神でチーム医療を行います。

【健康】私たち自身の心と身体の健康に留意し、良い医療・介護・福祉を提供します。

令和7年10月7日「岩倉幡枝楽生会医療講話」を岩倉幡枝公民館にて27名のご参加のもと開催いたしました。今回は「便秘について」と題し、当院内科の武坂絢医師が講演いたしました。

「便秘症」とは？から始まり基本的な便秘について説明され、慢性便秘症の判断基準、消化管の働き、便秘になるメカニズム、便秘症の分類、便秘治療並びに便秘の期間、腹部膨満感並びに痛み等便秘症状から推測される便秘症に至る基礎疾患の診断、診断後のお薬等による治療方法について更に詳しく説明がされ、食品、日常生活における便秘の改善、予防について講演が行われました。

大変身近なテーマであったこともあり、皆様の関心も深く多岐に亘ったご質問が寄せられ、非常に盛況ながら医療講話を終了いたしました。



看護物語

『病棟での看護師生活』

京都博愛会病院 看護部 谷口大輝

私が京都博愛会病院に就職して初めて所属した病棟はA2病棟です。A2病棟は75歳以上の後期高齢者の方が多くです。継続的な治療・処置を受けながら身体機能の維持のためにリハビリに励む患者さんや白内障・緑内障の手術を受けられる患者さんが多くいらっしゃいます。

私は昨年の4月から新人看護師として入職しました。病棟には複数の疾患を抱えた患者さんたちが多く入院されています。そのため、初めは患者さんの疾患の情報収集に追われ、焦る気持ちが大きかったと思います。そのため検温しながら症状の確認や疾患のことばかり聞いていました。先輩看護師から「質問ばかりすると患者さんが苦痛になる」という指摘を受けました。この指摘を受けた時、こちら側の一方的なコミュニケーションで終わってしまったことに気づきました。振り返ってみると患者さんの表情が硬かったように思います。患者さんの立場に立てば冷たく感じて自分自身のことについて話したくない気持ちにさせてしまったことに気づきました。それからは、病室を訪れた時は患者さんの気持ちを考えながら傾聴する時間を作るようにしました。そうすることでその患者さんの考えや悩んでおられることなど患者さんの全体像を深く知ることができました。疾患だけでなく、患者さんの気持ちを理解しようとする姿勢が大切であることを学びました。

昨年11月からD2病棟へ異動になりました。D2病棟は精神科の療養型の病棟です。より患者さんとのコミュニケーションによる関係の構築が大切です。至らないことが多く悩むこともたくさんあります。A2病棟で学んだことや経験を活かして京都博愛会病院の経験豊富な優しい先輩看護師に近づけるように日々努力していきます。





わが町のホームドクター

『家族も元気を頂いています』

遠藤 由香

令和六年十二月の頭に脳梗塞で京大病院に救急搬送された主人が一カ月後に京都博愛会病院に転院しました。

当初は左半身に力が入らず、言葉も呂律が回らず普通に話す事が出来ませんでした。介護認定は要介護4で、不安しか有りませんでした。

それが、翌年三月に退院した時には要介護2に変わり、その後よりハビリを続け、今はほぼ通常の暮らしが出来るほどになりました。入院中は先生方を始め職員の皆さんに温かく接して頂き、退院後もケアマネさんを通じてちょっととした事も相談に乗って頂けるのは本当に有り難いです。

長男は五年前に後縦靭帯骨化症で第二赤十字病院で手術を受け、その後リハビリの為に京都博愛会病院に転院してお世話になりました。下半身が麻痺していますが、リハビリを重ねて自分で車椅子を動かして外出したり出来るまでになりました。また、リハビリ科だけでは無く歯科や皮膚科や泌尿器科など多くの診療をして頂けるので本当に有り難いです。

実は私は四十年前、京都博愛会病院の本館がまだ工事中だった時に、門の側に有った受付で外部から掛かってきた電話の取次のアルバイトをさせて頂いたことが有るのですが、その時はこれほどお世話になるとは思いも依りませんでした。体調を崩して病院に行く時は不安を抱えて行くのですが、診察して下さる先生方も看護師さんも職員の皆さんも優しく丁寧に対応して下さいます。お陰で付き添う家族まで元気を頂いています。有難うございます。



「在宅療養あんしん病院登録システム」とは？

あらかじめ必要な情報を登録しておくことで、在宅療養中の高齢者が体調を崩し、在宅での対応が困難になった時にスムーズに病院で受診し、必要に応じて入院ができるシステムです。早めの対応により、病状の悪化や身体の働きの低下をできるだけ防ぎ、在宅生活を続けることを支援します。

次のような高齢者 (65歳以上) が対象となります。

- ・在宅で療養中の方
- ・訪問診療を受けている方
- ・かかりつけ医に定期的に通院されている方



※登録についてのお問い合わせは、各病院の地域連携室までお願い致します。

京都博愛会病院 (直通) TEL.781-1134 富田病院 (直通) TEL.491-3242

ストレッチの紹介 富田病院 リハビリテーション科より

ストレッチは「伸ばす」「引っ張る」という意味です。身体の各部の筋や腱を引き伸ばすことで関節可動域を広げ、筋肉を良い状態にするために行います。日常生活やスポーツでもケガをしない為にストレッチで身体の準備をすることが大切です。



※下絵：富田病院OTR 色塗り：患者様

① 足のうらのばし

☆ポイント (ハムストリングスと下腿三頭筋)
つま先は天井に向けて膝を曲げないようにしましょう。

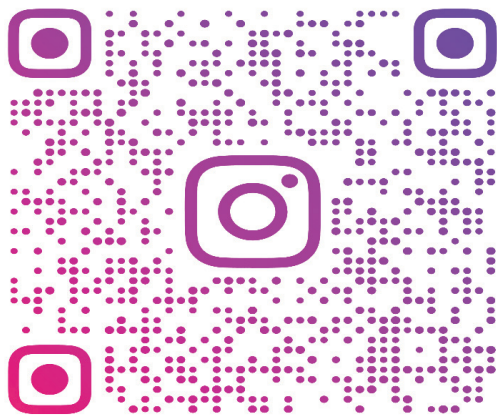
- ① 椅子に浅く座り、片足を前にのばす
- ② 胸を張って上体を倒す
- ③ 反対側も繰り返す

② 足のおもてのばし

☆ポイント (主に股関節の周りと大腿四頭筋)
背中ではできるだけまっすぐにのばし、骨盤が傾かないようにしましょう。

- ① つま先と膝を前に向けて広めに足を開く
- ② 胸を張り腿の前側をのばす
- ③ 反対側も繰り返す

京都博愛会病院 看護部の
公式Instagramを
開設しました!!



HAKUAI_KANGOBU

病院内の各所で
フリーWi-Fiが使えます
[京都博愛会病院・富田病院]



接続ガイドはこちら



京都博愛会病院

TEL:075-781-1131 〒603-8041 京都市北区上賀茂ケシ山1
<https://www.kyoto-hakuikai.or.jp/hakuai/>

富田病院

TEL:075-491-3241 〒603-8132 京都市北区小山下内河原町56
<https://www.kyoto-hakuikai.or.jp/tomita/>

訪問看護
ステーション はくあい

TEL:075-491-2711 〒603-8041 京都市北区上賀茂ケシ山1
https://www.kyoto-hakuikai.or.jp/hakuai_nursing/

デイケアセンターとみた

TEL:075-491-0700 〒603-8132 京都市北区小山下内河原町69
https://www.kyoto-hakuikai.or.jp/tomita_care/